



コペンGR&C-HR GR 徹底試乗

たまに見ると萌えるクルマの話

2019 12.26

ベストカーは
10日/26日発売です!

Best Car
カー雑誌
実売部数ナンバーワン!

ベストカー

定価 420円
講談社ビーシー/講談社



特集 日本車 2020 年期待の 星

SCOOP!スペシャル
Zの再起
パジェロ復活の
青写真!



EVユートピアは実現可能か

クルマ界迷い二者択一

いい年こいたオッサンがねだる
おねがいサンタクロース

声優レーシング独占取材
チーム



小型車の
革命児の
ヤリス
衝撃の
初試乗

創業間もない頃のカatalog



高瀬嶺生（たかせみねお）社長は1951年生まれ68歳。一般社団法人日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会（NAPAC）の会長も務め、その精力的な活動は衰え知らずだ

工業製品はシートもそうだが、CAD（キヤド）で設計することも多くなりましたが、量産の最終形には、ズレが生じます。それはさまざまな要件が加えられるからです。そのズレは人間の手であわせられればいいのですが、大量生産するものには向きません。

ブリッドがシート作りで大切にしているのは、ひとつひとつ手作りで仕事を進めることです。というのも、シートはひとりひとり、座る人によって感想が違ってくるわけですから、

これから目指したいのは「シートをカスタムする総合メーカー」です。オフィスやリビングのシートを、これまで培ってきたノウハウで作っていきたいですね。いずれにせよ、Made in Japanの誇りを持っていいシートを作っていきます。



トラック専用シートZAOU

長距離の運転や1日何十回の乗降などが当たり前のトラックドライバーの負担軽減のため専用設計されたZAOU（ゼオウ）は人気だ



ヘッドガードを装備し、ホールド性の高いシェルデザインを採用したXERO（ゼロ）シリーズの高いフィット感に大満足の国沢親方

高瀬嶺生社長に聞くBRIDEのこだわり

社名のBRIDEはスティーブ・マックイーン主演の映画BullittとHYBRIDを掛け合わせた高瀬社長発案の造語



シート素材はもちろん手縫い。さまざまなデザインや形状があり、ひとつひとつ丁寧に仕上げていく



シート素材とクッション素材をシェルに組み込む際には、スチームでしっかりと合わせていく



シートレールも手作りで仕上げていく。シートレールの型は1000種類もあるというから驚きだ

に近く、東京の蒲田や東大坂と同じく技術力のある小規模な工場が多い地域だという。BRIDEの工場も決して大きくない。高瀬さんは「小

さな工場だし手作りです」と言うものの、モノ作りの現場として見たらなかなか興味深い。確かに小規模ながら、素材から完成まですべてリー

にコントロールできている。大雑把の反対です。パーツ類はトヨタ流の「カンバン」で管理されており、必要な分が必要な分だけ常時



子ども用スポーツシート
東京モーターショーのデモランで試作した子ども用スポーツシート。身長125cm以下の子どもがロードスターでドリフトを楽しめるよう設計された。市販化が待たれる PHOTO/池之平昌信

高瀬さんに「シートを作るにあたって一番難しいことはなんですか？」と聞いてみたら「車検対応の認可を受けることなんです」。あまり認識されてないことながらシートは重要保安部品。難燃性の素材や表皮で作らないとならない。シートレールもすべて衝突時に必要な強度など規定されているという。数値だけでなく、実績まで勘案されるのかもしれない。

BRIDEは昨年、新しいコンセプトのシートを出した。今まで猫背シェイプの形状だった（私は身体に合わず背中パッドを入れてます）。新しいタイプに座ってみたら、「いいですね」。腰骨をしっかりと起こす形状。どちらかと聞かれたら、0.1秒も迷わず「新タイプ」と答えます。今使っているシート、運転席側だけでも新しいタイプに交換しようかしら。

スポーツシート一筋、手作りにこだわる



丁寧な仕事が安心、安全を生む BRIDE工場潜入ルポ

TEXT/国沢光宏 PHOTO/西尾タクト

私 が持っている競技車両のシートはすべてBRIDEです。なぜか？ まず信頼性。さまざまな競技で使われているけれど、今までシート起因のトラブルを聞いたことがない。競技で使われるパーツって、当たり前だが極限で使われ、予期しない大きなクラッシュだってありうる。普通のクルマ以上にシートは重要なのだ。

ふたつ目が車検対応シートレールの多さ。私の競技車両はMIRAもWRX S4もラリー用のため車検も必要なのだ。さてさて、愛用しているBRIDEながら、今回取材するまでどんなバックボーンを持っているのかまったく知りませんでした。今年ロードスター耐久レースの際、BRIDE代表の高瀬さんとシートについて話をしていたら「工場を一度見に来ませんか？」「そういえばバケットシートの生産工程は見たことないで



従業員わずか15人で月間1000脚近くのスポーツシートを製作するBRIDE（ブリッド）。手作りにこだわる本社工場を取材した

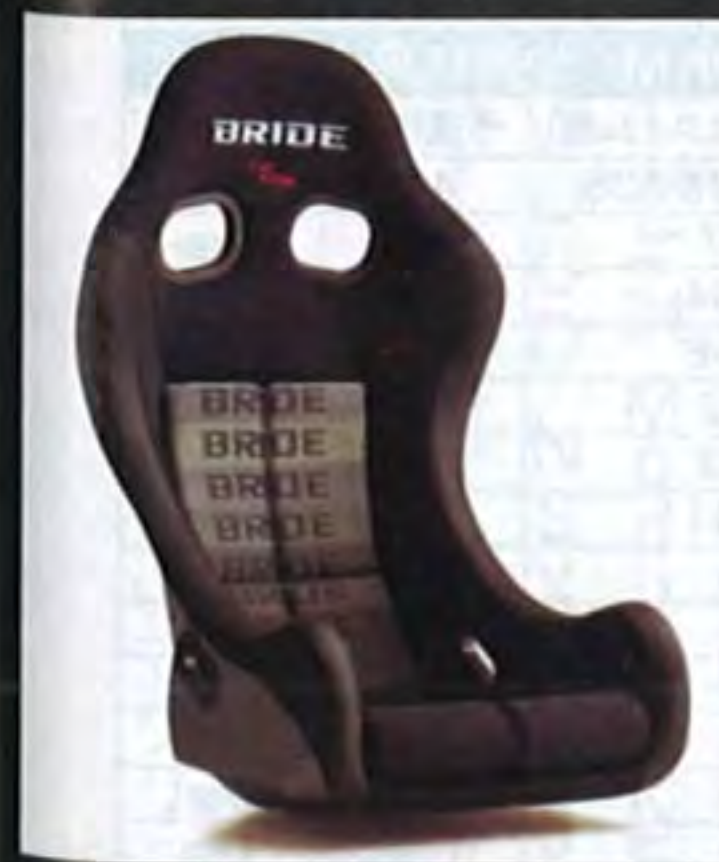
す！」となり、今回お邪魔させていただいた。海場所は愛知県の東海市。



1mmでも低いポジションを得るため最新モデル用にシートレールの幅をえぐったシェルを開発



製造部長の大田さんは「細かく目配りしながら、温かみのあるいいシートを作りたい」と語る



ZIEGIV（ジーク・フォー）

猫背ラインのバックレストが特徴で、頭が低くローポジションを取ることができる。10万5000～15万8000円（税別）

2003年登場のブリッドのベストセラーシートZETA III（ジータ・スリー）とZIEG III（ジーク・スリー）のフルモデルチェンジ版としてこの11月1日より受注が開始されたZETA IV（ジータ・フォー）とZIEG IV（ジーク・フォー）はシェル剛性を約15%アップしながら、本体重量を5%軽量化したFRP製シェルを採用。肩甲骨にフィットする形状に加え、乗降時に擦れやすいサイド部はPVCレザーを採用し、耐久性にも配慮。もちろん車検対応でFIAの厳しい保安基準にも対応している。

ZETAIV（ジータ・フォー）写真はスーブラ用

身長165～175cm、体重80kgくらいまでの標準体型を対象にしたフルバケットシート。9万2000～14万5000円（税別）

ベストセラーが16年ぶりのFMC

